

衛生環境研究所で行う主な感染症の行政検査及び検体一覧

令和6年4月1日 衛生環境研究所保健衛生室作成

※原則、検体を採取後、冷蔵で速やかに搬入する。翌日までに搬入できない場合は、保管方法等について、ご相談ください。

| 感染症名 | 必要検体 | 使用培地・容器 | 検査法 | ※参考として記載している。その都度相談してください。 |
|----------------------------|--|--|------------------------------------|--|
| 麻しん、風しん | 咽頭ぬぐい液 | VIB培地又はUTM培地 | リアルタイムPCR | |
| | 尿:10ml以上 | 滅菌スピッツ管等(病院の採尿管で可) | | |
| | 凝固防止末梢血(全血):2ml以上 | EDTA採血管(ヘパリンは不可) | | |
| 先天性風しん症候群 | 咽頭ぬぐい液 | VIB培地又はUTM培地 | リアルタイムPCR | 採取後2日以内は4℃。これ以降は冷凍。 |
| | 尿:10ml以上 | 滅菌スピッツ管等(病院の採尿管で可) | | |
| 日本紅斑熱(遺伝子検査用) | 凝固防止末梢血(全血):2ml以上 | EDTA採血管(ヘパリンは不可) | リアルタイムPCR | |
| 日本紅斑熱(抗体検査用) | 痂皮 | 密閉容器・シャーレなど | 間接蛍光抗体法 | 回復期血清:急性期採血の10日後~2週間後の血清。 |
| | 急性期血清(滅菌チューブに分注):500μl以上 | 血清:滅菌チューブ(スクリューキャップ式) | | 血清: 検査が7日以内に実施する場合に4℃、7日間以降の場合に冷凍。 |
| | 回復期血清(滅菌チューブに分注):500μl以上 | | | |
| つつが虫病 | 凝固防止末梢血(全血):2ml以上 | EDTA採血管(ヘパリンは不可) | リアルタイムPCR コンベンショナルPCR シャーケンス | |
| | 痂皮 | 密閉容器・シャーレなど | | |
| 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) | 血清(滅菌チューブに分注):1ml以上 | 血清:滅菌チューブ(スクリューキャップ式) | リアルタイムPCR | 血清分離できない場合はプレーン管で2ml以上採血でも可。 |
| デング熱・チクングニア熱 | 血清(滅菌チューブに分注):1ml以上 | 血清:滅菌チューブ(スクリューキャップ式) | リアルタイムPCR | 血清分離できない場合はプレーン管で2ml以上採血でも可。 |
| ジカ熱 | 血清(滅菌チューブに分注):1ml以上 | 血清:滅菌チューブ(スクリューキャップ式) | リアルタイムPCR | 血清分離できない場合はプレーン管で2ml以上採血でも可。 |
| | 尿:3ml以上 | 滅菌スピッツ管等(病院の採尿管で可) | | |
| レジオネラ | 喀痰 | 滅菌容器(50ml遠沈管等) | 培養 | |
| 結核(VNTR) | 菌株(生菌) | 小川培地など(病院の分離培地) | コンベンショナルPCR | |
| インフルエンザ(H7N9、H5N1) MERS | 喀痰:MERSの場合は2本(衛研用&感染研用) | 滅菌容器(50ml遠沈管等) | リアルタイムPCR | |
| | 咽頭ぬぐい液:MERSの場合は2本(衛研用&感染研用) | VIB培地又はUTM培地 | リアルタイムPCR | |
| 腸管出血性大腸菌 | | | | |
| 感染性胃腸炎 | 便(大人小指先大程度) | 密閉容器(フタはねじ式が望ましい) | リアルタイムPCR | |
| A型肝炎 | | | | |
| エムボックス | (1)皮膚病変 水疱液・膿疱液、病変部(水疱、膿疱内部)スワブ、痂皮、水疱蓋・膿疱上蓋、皮膚生検検体 (2)粘膜病変 病変部スワブ(肛門管粘膜、直腸粘膜、陰部粘膜、口腔粘膜等の粘膜疹や潰瘍病変部)、組織生検検体 (3)非病変部 咽頭スワブ、鼻腔スワブ、その他非病変部の粘膜スワブ、尿、精液、血液 | (1)水疱液・膿疱液:滅菌スクリューキャップチューブ(2ml以下)等に入内容液を入れて密栓。冷蔵保管。 (2)スワブ:スワブをウイルス輸送用培地(VTM)に浸して密封。冷蔵保管。スワブを溶液に浸さず密封しドライスワブのまま冷蔵保管でも良い。 (3)痂皮、水疱蓋・膿疱上蓋:滅菌プラスチックチューブに入れ密栓。冷蔵保管。 (4)尿、精液、血液:尿、精液は滅菌プラスチックチューブに入れ密栓。血液はEDTA管に採取。冷蔵保管。 | リアルタイムPCR | (1)皮膚病変 ・2箇所以上の皮膚病変から採取。 ・同じ種類の検体は1つのチューブに混合しても構わないが、異なる種類の検体を混合しない。 ・適切な検体採取が実施されたかどうかの判断のため、検体採取前の病変部の肉眼写真と検体採取時の手技の詳細について検体送付時に添付することが望ましい。 (2)粘膜病変 ・肛門管粘膜、直腸粘膜、陰部粘膜、口腔粘膜等の粘膜疹や潰瘍病変部から採取。 (3)非病変部 ・皮膚・粘膜病変に比べて検出感度は低下するが、サル痘ウイルスが検出されればサル痘と診断可能。 |
| HIV | 血清(滅菌チューブに分注):500μl以上 | 滅菌チューブ(スクリューキャップ式) | リアルタイムPCR | 7日以内に検査を実施する場合は、2~8℃で、それ以外の場合は-20℃以下で保存。 |